福島県立図書館所蔵
貴重郷土資料探照16

「福島交通電車軌道廃止関係写真集」

『福島交通電車軌道廃止関係写真集』は、福島県道路維持課（現 道路計画課、道路管理課、道路整備課）が作成した資料である。本書は、道路維持課から当館に寄贈され、昭和54（1979）年6月25日に受入し利用に供している。

福島交通電車軌道は、昭和46（1971）年4月11日に廃止された福島市と伊達郡方面とを走っていた路面電車のことである。

この路線は、明治41（1908）年4月に福島駅から長岡村（現 伊達市長岡）経由で湯野村（現 福島市飯坂町）を結ぶ信達軌道の開通から始まった。開通の3か月後には長岡から保原町（現 伊達市保原町）へ。その2年後には、梁川町（現 伊達市梁川町）へ。その後も保原町から掛田町（現 伊達市霊山町）、川俣町に延伸。保原町から桑折町への新線開通と、信夫郡、伊達郡内の要所を触手のように結んでいった。この頃の信達軌道は、動力が蒸気ではあったが、東北最大の路線長を誇っていた。

大正12（1922）年に蒸気機関車からの火の粉が原因による大火で危機を迎えたものの、ピンチをチャンスに変え、路線幅を拡幅化、更には電化することによりスピードアップし福島電気鉄道と改称した。さらには、赤字路線を廃止し、飯坂軌道（現 福島交通飯坂線）との合併により経営も安定していった。

戦後の高度経済成長下、バス路線の拡充やマイカーの普及に伴って、道路を車と共用していたことがネックとなり、利用者の減少も相まって廃止に至った。

本書は廃止前の各所の軌道を撮影した104枚のモノクロ写真と写真位置図（5万分の1縮尺の地図）から構成されている。撮影年月日は残念ながら不明であるが、国道4号線北町バイパスが開通していることから、昭和41（1966）年1月以降である。背の低い街並や、未舗装の道路、今とは明らかに異なった形状の乗用車など、今から40年以上前の県北地方が実感できる写真は一見の価値がある。

『福島電気鉄道　福島交通　阿武隈急行』（橋本俊一著　高樹屋発行）に、主だった写真と現在の様子が比較できるように収録されている。

関連して、『鉄道廃線跡を歩く　Ⅵ』（宮脇俊三編著　ＪＴＢ発行）のｐ59-61に、「福島交通軌道線の古今」として杉崎行恭が、本書とは違う21枚の写真と地図を用いて路線を紹介している。

東日本大震災の後は、未曾有のガソリン不足の中で、普段は意識しなかった公共交通の大切さを実感した方も多いのではないだろうか。本書をご覧いただき、その在りようについて考えていただければ幸いである。

行政機関が作成、あるいは収集した資料の中には、保存年限を経て図書館に移管されることで、日本全国の方に広く利用されるような価値を有するものも多い。その好例が本書である。行政マンの配慮と、広く収集し利活用を図りたい図書館の思いが結実したもと言えよう。

同様の経緯で当館に所蔵された資料として、明治21（1888）年に遠藤陸郎が撮影した『磐梯山噴火写真』が挙げられる。

この震災において発生した膨大な行政資料においても、同様の措置を望みたい。

〈地域資料チーム：遠藤豊〉